

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料 1

令和7年1月6日

協議会名:厚沢部町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通確保維持改善事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
有限会社マルジュウ高田	運行系統名:①南線、②北線、③ 南北線 運行区間:①館町～滝野～江差 高校、②相生～赤沼町～江差高 校、③ 相生～館町～赤沼町～江 差高校 運行回数:①300回、②300回、③ 55回 運賃:別紙運賃表のとおり	令和6年4月から事業開始のため実施していない。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	南北線の利用が想定を下回ったこと等により、江差高校生の利用者の目標である生徒数の6割22人(往復1人換算のため、片道の場合44人)に対し、38.8人/日(片道換算)であった。 江差高校通学向け乗合バスの収支率は、目標20%に対し、30.3%であった。 江差高校通学向け乗合バスの公的資金投入額は、計画時は土曜日及び長期休業日の運行を含んでいなかったため、目標9,541千円に対し、12,373千円であった。 江差高校通学バス定期券については、事業開始年度の新1年生においては購入者率100%であり、バスの利用は向上している。一方で土曜日、長期休業日は部活動の時間帯がバラバラであること、また、バスを1台体制の運行ルートとしていることで、平日に比べ乗車時間が長くなることから利用者が少ない状況である。来年4月に向けて高校生のアンケート調査を実施し、運行時間の見直しを行う。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月6日

協議会名：	厚沢部町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域公共交通確保維持改善事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	厚沢部町においては、広域幹線として函館バスを実施主体とする函館・江差間を運行する路線バスが主な公共交通機関となっている。 また、支線としては、有限会社マルジュウ高田を実施主体とする江差高校通学向け乗合バスを運行している。主な利用者は江差高校へ通学する高校生であること、また、買い物、通院等の日常生活を目的とする移動手段の役割を担っており、地域拠点へ接続することで広域への移動も可能とするなど、広域幹線を補完する欠かせない路線になっている。 一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく取組を進めているところである。